

## 「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い～」出展報告

教育と普及委員会  
人材育成・男女共同参画委員会

女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として、2019年8月9日～11日に、埼玉県比企郡嵐山町の国立女性教育会館で「女子中高生夏の学校」（以後「夏学」）が開催されました（<http://nat.sugaku.jp/>、2019.8.26閲覧）。「夏学」は独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）の主催で2005年より毎年開催されており、今年で15回目を迎えています。全国から集まった約100名の女子中高生が2泊3日の合宿研修を行い、その中で科学研究者、技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、理系に進もうという意思を高めることを目指しています。日本気象学会は昨年に引き続きこれに出展しましたので報告します。

日本気象学会は、教育と普及委員会と人材育成・男女共同参画委員会と共同で2日目に行われたポスター展示に出展しました。ポスター展示は、参加者が13時から15時15分の間に各出展団体のブースを回り、興味のある分野の話の聞いたり、キャリア相談したりするというスタイルです。今年は45の団体が出展しました。日本気象学会からは7名（教育と普及委員会から、島山正恒、高田久美子、小田真祐子、川瀬宏明の各委員、人材育成・男女共同参画委員会から、榎本剛委員長と、竹下愛実、木下武也の各委員）が事前準備

及び当日のポスターの説明やキャリア相談を行いました。

ポスターは、2018年と同様、地球温暖化がテーマです。2018年の夏は各地で猛暑日が続くなどしましたし、2019年も梅雨明け以降、猛暑が続きました。ただ、猛暑日があるから温暖化といえるのか、実際にどういった温暖化の研究が行われているのかなどはあまり知られていません。そこで、温暖化と気候モデルについて説明したポスターをつくり、展示しました（第1図）。現物はウェブページに掲載しています。（<https://www.metsoc.jp/2019/08/16/16841>）。また、国立環境研究所地球環境研究センターの協力により、温暖化に関する広報用資料や実験器具などを提供



第1図 ポスター、配布資料など



第2図 (上) 国立環境研究所から配布用に頂いた地球温暖化の広報用資料及び(下) 日本気象学会が作成した「輝く女性研究者たち」

していただき、それらを用いて、細かい点を説明することができました（第2図）。

日本気象学会のブースは日本地球惑星科学連合（JpGU）や日本海洋学会など地球科学に関するブースの近くに位置していました。そのため、地球科学に興味があるという生徒がたくさん来てくれました（第3図）。今年は、教育と普及委員会の川瀬宏明委員が撮影した美しい雲の写真に加え、人材育成・男女共同参画委員会ホームページで紹介している「きらきら輝く会員」（<https://www.metsoc.jp/jinzai/member.html>）の中から、許可をいただいた女性研究者をまとめた資料「輝く女性研究者たち」を配布しました。そのため、温暖化の説明だけでなく、将来こういうことをしたいなど、進路に関する話もすることができました。

前日には「キャリア・進学相談会」が、ポスター展示の後には理系の学び舎進路について5～10名のグループで話し合う企画（GateWay）があり、榎本委員長が参加しました。ポスター展示等に参加したスタッフが様々なテーマ毎に待機し、生徒達は「理系苦手だったってホンマでっか!」「物理屋さん」「地学って何?」「就職先はある?」など、思い思いのテーマを3～4つ巡って、ざっくばらんな話を熱心に聞いたり質問したりしていました。地球物理系・地学系のスタッフ同士の交流としても有意義でした。

気象や環境に関する知識が豊富な高校生から、まだ物理を勉強し始めていない中学生まで様々な参加者がいましたが、知識の量に関わらず意欲的で、自ら学ぼうとする強い意志に私たち大人が刺激を受けるほどでした。様々な職業で男女差が縮小しつつあるこの時代に、彼女たちが性別に関わらず目指す道を進んでいけたら、そして、今回の出展が少しでもその助けになればと思います。最後に、国立環境研究所をはじめ多くの方のご協力で無事出展できたことに感謝します。



第3図 当日の様子